

## 待望の札幌公演が遂に実現! あの伝説の美音が蘇る!

20世紀を代表する偉大なピアニストの一人として世界中のクラシック・ファンを魅了し、絶大な人気を誇った巨匠アシュケナーズは、近年、指揮者としての活動に専念しており、ほとんどピアノ演奏を聴く機会がありませんでしたが、ファンの熱い要望に応えて2009年に長男ヴォフカとの共演によるピアノ・デュオのCDをリリース、2011年には二人のデュオによる日本公演も開催、来日記念盤として発売されたデュオ第2弾CD「ロシアン・ファンタジー」は高い評価を得ました。

そして2014年、待望の札幌公演が開催されます。

会場の札幌コンサートホールKitaraにある4台のスタインウェイは、アシュケナーズが選定したものです。自身の選定したピアノによる父子ならではの息のあったアンサンブルで奏でる、2台ピアノのための名曲、そしてヴォフカの編曲版によるボロディンの「だったん人の踊り」、ストラヴィンスキーの傑作として名高い「春の祭典」をオーケストラに匹敵する迫力溢れた多彩な響きでお楽しみください。

### ウラディーミル・アシュケナーズ Vladimir Ashkenazy

1955年ショパン・コンクールにて世界にその名を知らしめて以来、ウラディーミル・アシュケナーズは、ピアニストとして傑出したキャリアを誇るだけでなく、アーティストとして多彩な活動を積極的に展開し、世界の音楽愛好家に感動を与え続けている。クリーヴランド管弦楽団首席指揮者、ベルリン・ドイツ交響楽団首席指揮者・音楽監督、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、NHK交響楽団の音楽監督を歴任、2009年1月よりシドニー交響楽団の首席指揮者・音楽アドバイザーに就任。また、桂冠指揮者を務めるフィルハーモニア管弦楽団、NHK交響楽団、アイスランド交響楽団や、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団などの指揮台に定期的に登場している。またEUユース・オーケストラの音楽監督も務め後進の育成にも力を注いでいる。ピアニストとしてのアシュケナーズは、舞台を主にレコーディング・スタジオに移して、1999年グラミー賞を受賞したショスタコーヴィッチ「プレリュードとフーガ」や、バッハ「平均律クラヴィア曲集」、ヴォフカ・アシュケナーズとのデュオ作品集などに見られる様に、多彩で広範囲にわたる作品の録音に、献身的に取り組んでいる。

### ヴォフカ・アシュケナーズ Vovka Ashkenazy

モスクワ生まれ、アイスランドと英国に育ったヴォフカは、幼少よりピアノをはじめ、やがてロイヤル・ノーザン・カレッジにてスラミータ・アロノフスキーらに師事。1983年にパービカンセンターにて、リチャード・ヒコックス率いるロンドン交響楽団とチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を共演しロンドンデビューを飾って以来、多岐に渡る活動を繰り返している。近年では、セミヨン・ビシュコフ、マルティン・フィッシャー＝ディースカウ、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキらと、ハリウッド・ボウル、シドニー・オペラハウス、ベルリン・フィルハーモニーなどにて共演。室内楽奏者として、ヴァシリス・ツァブプロロス、レイキャビク木管五重奏団、デIMITリ・アシュケナーズらと共演、録音も行っている。ウラディーミル・アシュケナーズとのピアノ・デュオとしてデッカより2009年にリリースされたフレンチ・デュオ作品集は、各方面から高い評価を得ている。コンサート活動の傍ら、オーストラリア、デンマーク、イギリス、ギリシャ、グアテマラ、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、米国などでマスタークラスを開催するなど、教育活動にも力を注いでいる。



Vladimir & Vovka ASHKENAZY Piano Duo